

やすらぎ



「歎異抄」(第五十四回)

樫 暁 講述

「歎異抄」後序 続き
 聖人のおおせには、「善悪のふたつ総じてもって存知せざるなり。そのゆえは、如来の御ころよしとおぼしめすほどにしりとおししたらこそ、よきをしりたるにてもあらめ、如来のあしとおぼしめすほどにしりとおしたらこそ、あしさをしりたるにてもあらめど、煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろずのこと、みなもつて、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします」とこそおおせはそうらしいか。

(真宗聖典六四十頁)

我々が善だ悪だと云っているけれども、全て真の善悪を知ってい

ないと云っている。善悪の世界から完全に抜け出るということはできない。日常生活の中に善悪を立てていかなければ生きていけない生活をしている。その我々が聴聞することにおいて、自分が知っているつもりでの善悪は、これはなはだ心もとない。不徹底な自分の都合を中心とした善悪。煩惱具足の凡夫とは我々のこと。生まれる前から迷いの心身を身につけて出てきている我々。仏法を聞いてはじめて煩惱具足の凡夫ということをつからせてもらえる。その凡夫が社会を構成している世の中。仏教の一般語で云えば穢土。その世界の現実には火宅無常。火宅無常の世界というけれども我々は無常ということも知らないで住んでいる。仏が教えているが、その教えを深く自分のこととして聞いていない

光照寺寺報

発行所
 真宗大谷派 弘興山
 宗教法人光照寺

〒331-0821
 さいたま市北区別所町102-2

電話：048-651-2781代

FAX：048-651-2753

E-mail

yasuragi@beige.ocn.ne.jp

ホームページ

http://koshoji76.jp

発行人 池田孝郎

から、火宅無常の世界を分らないで罪を作って生きている。我々が教えに遇いながら教えを忘れ煩惱生活をしている。「まこと」とは真実。真宗において真実とは本願のこと。すべてのものを漏らさず救うということが仏の真実真理。我々が真実と云っているのは、人間の立てた真実であり、絶対の世界から云うならば、相対有限なものである。り、いつそれが崩れるか分からない。十八願門の中に、至心、信楽、欲生という三つの心が説かれている。その至心とは、真実信心。如来の本願が真実である



護持会総会にて



総会 譲原旭奏氏

から、本願が我々を目覚まし、我々に真実信心を回向して下さる。だから我々の上に頂いたことは本願がただひとつのまことであると深く信じる心ができる。それが真実。我々自身が真実だと思つて求めていつて、これが真実だと思つて求めていつても、それはまた変わっていくというような現実において、変わらない真実は何かというと、それは如来の本願である。私は「歎異抄」を読むことは「教行信証」を背景にして読まないで、そこに勝手な解釈をすると「歎異抄」の云われる心を我々がゆがめてしまふことがある。

(当寺) 法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照 次回へ続く

報恩講

十一月十八日(日)午前十一時厳修

護持会総会報告

子供会報告

詳細は3頁

詳細は4頁

詳細は5頁

「ポストシンギュラリティの時代を生きる教育」とは如何にをテーマに考えてみたいと思います。

「シンギュラリティ」という言葉は、未来学者のレイ・カーツワイルの造語で、「技術的特異点」と訳され、二〇四五年には、AIが人間の知恵（人知）を越えるというのです。

教育界も子供たちに、社会が大きく変化するのなら、教育もそれを見据えて変えていかなければならないと警鐘を鳴らし、「ポストシンギュラリティ」を生きる子供



たちの土台づくりをどのようにしていけばよいか、そこに主眼があると指摘している。

今年のN・H・Kラジオの「夏休み子ども科学電話相談」の中に「AI」についての質問コーナーがあり、「AIは人間の心とか愛もわかるようになるのか」と小学生が先生に質問しているのには驚きました。答えている女性の先生は、「人間の心がわかるAIを研究しています。」と答えていた。

「親鸞仏教センター通信」第65号の、「心の哲学と幸福論」の前野隆司氏の文中に、『生物学者の松本元さんは、心は「知」「情」「意」「記憶と学習」「意識」の五つにより理解できると言われましたが、その内の「知」「情」「意」「記憶と学習」の四つをロボットにプログラミングすることはできるようになりました。ですが、ロボットに「意識」をもたせることはできていません。「意識」というものの仕組みがまったく明らかになっていないからです。他の生物やロボットと違って、人間に「意識」が生じたのはなぜか。』と。そして、『意識』は「無意識」の結果を見てエピソード的に記憶してい

るだけというモデルを考え、現象的意識は幻想にすぎないのではないか、という考え方はブッダのいうところの「無我」説に近いのではないいかとも思っています。『本多弘之所長からは、この「無意識」のとらえ方が唯識の阿頼耶識のことはないかとご指摘いただきましたが、これは思ったことのない見方でした。』の論展開に、AIは「無意識」、「無我」、「阿頼耶識」の人間の深層まで到達して、人間の「意識」を超え、「人知」を超えると断言出来るでしょうか。

私は二五〇〇年前に悟られたお釈迦様の「仏智」をAIは超えられないと断言したい。

「人知」と「仏智」の相異を明らかに定義しなければならぬとも思います。

お釈迦様は人間の苦悩、生苦、老苦、病苦、死苦の四つの苦を超えるお覺りを悟られた。AIにこの四苦を超えることは出来ないかと断言したい。何故ならば、AIで便利になり、快適になり作り出された世界は人知では想像も出来ないSF的な恐怖の世界となると思う。末代に仏智の念仏を流通せねば人間はAIのロボットになる。

真の依り処

この私はどんなに愛する人でも、どんなに大切な人であってもまるごと信じられない、いつも疑いをもっている私、その反面自分をまるごと受け止めてほしいと思う私、なんてわがままなんだろう。阿弥陀様はどのような私であっても見捨てないと、そして大悲に目覚めなさいと声なき声は時には聞えて来ますが無間地獄に居て我執にまみれ根深い断ちがたい自己中心の心で自我から離れられない私が、知恵の眼がみえない私が生かされてここにいます。阿弥陀様往生浄土に生かしていただきたいのですが。私の生きる生活の場所を受けとめてみたり、又、すっかり忘れてしまったり、またまた思いを深めてみたり力強く精一杯このいのちを引き受けて歩ませていただきます。南無阿弥陀佛

岡田ノリ子

鈴の音

汝、無量寿に帰れ。無量寿に帰って、無量寿を生きよ

信國 淳
（「寿命」より）

本年は廣瀬惺先生（同朋大学元教授、妙輪寺住職）をお迎えして報恩講を厳修致します。先生は大

【報恩講は宗祖、親鸞聖人のご恩徳に報謝し、いのちの道理を深く尋ねる法要で、一年の中で最も大切な仏事です。真宗門徒として必ず勤める法要であり、光照寺の今年度最後の大きい法要ですので是非ともご参詣下さい。】

は是非とも奮ってのご参詣をお待ちしております 副住職（釈徹照）

学のご教授は退職され、現在はお寺のご住職としてご活躍されながら、多方面で教化活動に尽力されておられます。親鸞聖人のお言葉ひとつひとつを紐解き、懇切丁寧にお話下さります。皆様とともに報恩講を勤めて参りたいと存じます。ご家族、縁者お誘い合わせの上、

報 恩 講

- ・ 11月18日(日)
- ・ 午前11時～3時まで（10時30分受付）
- ・ 場所 光照寺本堂
- ・ 日中法要厳修
- ・ お斉（お食事）
- ・ 法話 廣瀬 惺先生（同朋大学元教授、妙輪寺住職）
- ・ 講題 「真宗の要―「獲信」―」

※準備の都合上、出席の際は、一週間前にはお寺にご連絡下さい。

先生よりメッセージ：

真宗をいただいく場合、要を明確にすることの大切さが教えられています。そのことについて、私は『正信偈』の「獲信見敬大慶喜」の「獲信」にいただいています。なぜ信心が大切なのか、また信心とはどのような心なのかについて、一緒に学ばせていただきたいと思います。

先生の書著：

『阿弥陀経に学ぶ』（東本願寺出版）、『本願の救済』（大垣教務所刊）、『人生の一大事』（共著・真宗大谷派名古屋別院刊）他多数。

ひとくち 歎異抄

羅漢：「罪惡深重 煩惱熾盛の衆生はたすかるか。」
「弥陀の誓願不思議にたすけまいらせて、」 第1章



「往生をばとぐるなりと信じて念仏もうさんとおもいたつころのおおるとき、すなわち損取不捨の利益にあずけしめたまうなり。」

川越喜多院の五百羅漢



お盆 同朋唱和



お盆 住職ご法話

護持会総会報告

淡海 雅子

平成二十九年度第十九回光照寺護持会総会が六月十三日十時から光照寺本堂において多数の参加者と共に開会されました。

勤行（正信偈同朋奉讃）に引き続き、婦人有志の皆様と共に仏教讃歌「真宗宗歌」・「恩徳讃」・「衆会」を唱和しました。

いずみ会館館主佐々木玄吾師に『蓮如上人御一代記聞書』より、「仏法をあるじとし、世間を客人とせよ」と題してご法話を頂きました。仏法が先世間が後。念仏の心を主体として現実の人生に取り組み念仏をすすめる人になることが大悲を行ずることと伺いました。

総会には佐々木玄吾氏を議長に議案に入り、前年度護持会の活動実績及び、護持会収支決算と監査が報告され全会一致で承認されました。今年度活動計画案及び、今年度収支予算案が提案され何れも原案通り可決承認されました。続いて年間行事、聞法会の紹介、サークル活動、子供会「ポニー



佐々木玄吾会長お疲れ様でした



総会 佐々木先生ご法話



新会長平山正三氏



新副会長藤原自雄氏



新埼玉組門徒会員淡海雅子氏



総会 婦人有志合唱



絵解きサークル発表



譲原旭奏氏演奏

クラブ」の案内と参加の呼びかけがありました。光照寺旅行は十月十九日、二十日に『善光寺・戸隠と親鸞聖人流罪の地を訪ねて』一泊二日の旅行を企画しております。役員が改選され護持会会長佐々木玄吾氏が退任し庶務に、新たに平山正三氏が新会長に、後任の副会長に藤原自雄氏が承認されました。

た。庶務の山田恒氏は退任されました。組門徒会員に淡海雅子氏が就任しました。続いて委嘱状が授与され、新役員より挨拶がありました。御住職様より挨拶を賜りました。光照寺の護持会も十九回となり、人と言ったら成人です。成立当時を振り返り、発展の歴史を伺いました。

総会終了後、お斎をいただき、感謝がありました。その後「一切経御校合の事」を題材に絵解きサークルの発表がありました。譲原旭奏氏による筑前琵琶歌「川中島」の演奏を鑑賞し、琵琶に関する興味深い説明を頂きました。最後に全員で「恩徳讃」を唱和し閉会いたしました。会長が交代し新体制になります。今後とも皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

子供会報告

子ども会「ポニークラブ」
社会科見学(大宮南部浄化センター)

大塚 陽子

八月二十四日(金)に、大人九名、小人六名の参加にて、勤行をしてから自己紹介をし、八月号の同朋新聞のキッズのページの「私につ

ながるいのち」という所を皆で読んで、その後は江戸時代の判じ絵クイズをし、車で移動し、大宮南部浄化センターへ行きました。昼食を食べた後、職員さんの案内で、ピオトープへ行き、しかけておいた箱を池から引き上げてザリガニを捕ったりモツゴなどの魚を見た

りして触れ合いました。その後、木で作ったコマやストラップに絵を描いておみやげにいただきました。下水の処理の様子を見学させてもらい、夏の自由研究になりそうな内容で、大人も勉強になった一日でした。



本堂にて



大宮南部浄化センターにて



自然とふれあい



ザリガニつかめるよ



バッタはどこ



工作楽しい



仲良しだよ



仏教の話

お知らせ

寺務所より

◆法要のご案内

●報恩講 十一月十八日(日)午前十一時より厳修。講師は廣瀬惺先生(同朋大学元教授、妙輪寺住職)

●修正会 平成三十一年一月一日元旦、午後一時より厳修。新年を阿弥陀如来のご尊前より出発致します。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

講師は延塚知道先生(大谷大学名誉教授) 十一月二十六日、平成三十一年一月二十二日、三月十九日、午後一時半～四時半。『教行信証』を学んでいます。

●大経の会 十月十四日、十一月二十三日、十二月十六日、午前十時～午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別。『正信偈讃仰』(二)を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会 十月三十五日、十一月六日、十二月二十一日、午後二時～四時まで。『真宗の簡要』(住職著) サブテキスト「無量寿経に聞く」(松原祐善著)。「無量寿経に聞く」(下巻)(延塚知道著)を学んでいます。講師は住職。

●微風学舎 午後七時～九時まで。講師は副住職。「顕浄土」の教学―親鸞における現生不退の視座―(副住職著) サブテキスト「今日のことは」「真宗の生活」を学んでいます。十月九日、十一月十二日、十二月四日。

◆真宗に学ぶつどい(埼玉組主催)

十一月七日、午後一時三十分。会場は法善寺、講師は武田定光氏(因速寺住職)。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。

住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。宜しくお願いします。

俳句・川柳



吉澤 光昭

蘭ざわりの粗さ好みし長十郎
今日ひとつ覚ゆ色鳥飛び去りぬ
凭(よ)れて大樹の秋のあわれ知る
秋遍路修へて足音耳にあり

秋の声

江部 良吉

なみなみと命水注ぐ原爆忌
草ばたるゆめをかたち風の中
上品の月みそなはず祖師の旅
風の良寛横顔でゆく初嵐
沼杉に頬つけて聞く秋の声

あなたの計人生ゲームを閉じました
この道でよかった妻が笑つて

山田 恒

短歌(詩)

江部 良吉

正丸の坂は名のみとなりけり
行く人偲べ何時の代までも昭和四二年

佐々木 玄吾

五十回節目の年の練成会
初回の網代が思い出される
父と子とみんなの前で勤行す
家族的なりいずみ会館

山田 恒

八・一五来るたび吾に蘇る
飲まず食わずに生きし時間が
静寂の西城沼を娘と二人
浄土に咲くという蓮花に出会う

赤秀 品枝

暑い夏そうめん流しよろこぶ子ら
願いを込めて生きる人達
還付金サギに注意とふれまわる
人ごとと思う我は何者

篠原 潤子

新(お)聞の配達先の家々の

幸せ念じ老翁の朝
母親を近くの施設にひきとると
動いた徒妹脳いっ血だ

五年間ひとりで夫の介護する
八十六の老女の背中や
酷暑なか築地本願寺娘とゆけば
南無阿弥陀仏まるごと包まる

初孫の無邪気に笑うその声に
ナムアミダブツ心でとなう

梵鐘

鎌北湖秋景
山田 邦興 画

朝刊の一面に「十七年度の児童虐待 最多十三万件」とあった。学校や職場、最近ではスポーツ界でも相次ぐいじめ、パワハラ問題。自ら命を絶つ人も多い。

これらの出来事は、決して他人事ではない。誰でも被害者、場合によつたら加害者になる可能性もある。「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」と歎異抄にある。

親鸞聖人の浄土和讃には、「五濁悪時悪世界」を生きる我ら凡夫のために名号は与えられたとある。南無阿弥陀仏を頂きつつ自己の心の闇を見つけていきたい。「念仏申すべし ありのままの中に 大法頂戴すべし」住岡夜晃 合掌 藤原自雄